

小野浜造船所における職工養成と清国人職工の役割

要旨

本稿は、明治初期の日本への技術移転において横須賀製鉄所と並び重要な存在である、小野浜造船所で行われた技術伝習の方法を明らかにした。小野浜造船所は、創業わずか数年で日本海軍の受注を獲得するに至るまでに成長した外国人経営の民間造船所である。社長である E.C.キルビー (E.C.Kirby) が熱心な営業活動をしたことも軍艦受注の要因であったが、本稿では、その背景にある職工の技能形成に注目する。特筆すべき点は、外国人技術者と日本人職工の仲介者としての清国人職工の役割であり、海軍はその役割に注目して彼ら清国人職工をお雇い外国人として雇用した。最後に残った清国人職工への待遇は、中央と地方（呉）の対立を生じさせたが、この過程には、清国人職工が果たした役割を窺い知ることができる。また清国人職工の出自を辿ると、小野浜は神戸という開港地を背景として誕生し成長したことがわかり、国際的視点から見ても興味深いものである。